

留学報告書 (2018年6月)

Funai Overseas Scholarship 2016年度 奨学生 今里 和樹

1. はじめに

この頃(5月下旬)やっと暖かくなってきましたシカゴからです。シカゴに来るのは5/20以降をおすすめします。それ以外は気温一桁の可能性があるので、日本人(関東人)からしたら冬です。毎回この報告書を機に半年ごとの振り返りをできるのは、意外と自分のペースを作るのにも役に立っている気がします。

2. 研究

前回この報告書を書いた時期は論文の追い込みで、パニックでした。シカゴに来た一年目、何もわからない段階でとにかく手を動かしていた結果が、たまたまうまくいった完全なビギナーズラックです。それでも、最初の二年間で研究室における自分の居場所を作ることが渡米前からの目標だったので、早めに結果を出せたことには感謝。船井財団様からの支援が2年間であること理由は、この二年の間にしっかり成長して、留学先に自分が必要とされる環境を作りなさいというメッセージだと思います。それを目指して頑張ってきて、何とか達成できたという意味でも一つ目のハードルをクリアできたように思います。前回間に合っていない分の論文は最後に載せました。¹⁻⁴

これまでの経験を通して研究を形にする一通りの流れを叩き込んでもらったので、今後は自分が面白いと思うアイデアを試しつつ、前に進めていく力をもっと鍛えていかなければいかなければというところです。とはいえまだQualifyも終わっていませんし、TAもやっていないので今後もやるべきことがたくさん。同僚たちに比べると知識も生産性もまだまだ及ばないことばかりなので、今後も謙虚にじっくりと実力をつけていこうと思います。

3. 英語のサポート

第2回目の留学報告書で留学生向けのサマースクールがとても役に立ったという話をしました。今回はこういった英語のサポートについて少し紹介しておきたいと思います。来る前は数か月あれば余裕でしゃべれるでしょとか思っていたけど、留学すれば英語はしゃべれるというのは嘘。放っておいて英語がうまくなることはないのだからしっかり使い倒して、英語を自由自在に使いこなせるようになりましょう。

3.1 テスト

これはちょっとサポートではないかもしれませんが、ぼくの学科では留学生の卒業要件として英語試験(Versant Test, Speak test)に合格しなければなりません。あれだけTOEFLに苦しめられたのにさらに上位互換の試験がやってくるわけです。それを知ったときはほんと嫌になりました。入学時にパスできないと半年に一回、受かるまで受けさせられます。さらにテストに落ちると下記(3.2)の英語のクラス+ α (Webアプリを使った発音トレーニング、etc.)をやらされるので結構時間を取られて大変です。昨年秋に合格したので、終わってみればためになったと思いますが、どこまでも英語で悩まされるなあと。

3.2 英語の授業

各学期にはSpeaking, writing, readingといった目標に合わせて授業を無料で取ることができます。もちろん先生はNativeで、基本は言語学選考の大学院生たちが授業を行ってくれるのでためにはなりません。しかし、上記のテストに落ちて強制となるとさすがに毎週行くのがだるいし、特に一年目は学科の宿題やりたいのに英語のクラスがあってイライラすることもありました。一通りの発音とか、アメリカ来たばかりのときに英語(文化)に関する疑問なんかを解消するにはいいですが、基本緩いクラスなので、自分からはもう取らないかなあ。英語クラスでよくあるのは中国語で喋っている中国人生徒同士が先生に怒られている光景。



図2 カブスにダルビッシュ投手がやってきました!野球好きのぼくとしては今年一うれしかったです。卒業までに何とかもう一度WSで優勝してほしい!

3.3 Tutoring

これも最初は強制でした。毎週一対一で 30 分、自分のやりたいこと、弱点 (r,l の発音！とか) を個別指導してもらいます。一年目に強制でやらされているときはすごくテンションも低くて、無理やり個別指導塾に行かされている気分でした。しかし、自分の課題が明確なときはとても役に立ちます。ということを最近発見しました。

春に学会に行って口頭発表をしたとき、今までよりははるかに堂々とうまくやれたのですが、まだまだ日本人的な発音の癖は取れてないと実感。もっと観客を引き付けられる発表がしたいと思い、今学期はプレゼンテーションの練習をさせてもらっています。やはり慣れが大事だという部分もありますし、発音はもちろん細かい言い回しや表現までコメントを毎回もらえるのでとても役に立っています。クラスであるまり発言できないみたいな方もこういうところから会話力を伸ばしていくのもありかと思えます。

3.4 Writing Place

いまだに英語で文を書いている Since, However, In addition to... 自分の文章のワンパターンさが嫌になります。そんなときに便利なのがこの Writing Place です。Homework, Proposal, paper, thesis まで英語の添削をしてくれます。どこまでプロフェッショナルなのかはわかりませんが、添削を受ける側の生徒のほとんどはアメリカ人らしいですし、しっかりと論理構造やストーリーまで見てもらえるので、かなりためになります。もちろん研究室のメンバーに添削を頼むこともありますが、英語の部分での不自然さを減らしておくことで、より専門的な部分にフォーカスしてチェックしてもらえるので論文を書く時にも便利です。あとは添削してもらう文章ができる前に無理やり予約を入れてしまうことで、論文の執筆速度を上昇させるという二次的な狙いもあります(笑)

3.5 英語まとめ

書いてみるとたくさんあります。これだけのリソース、もし語学学校に行こうなんてことになれば何十万、何百万円の世界でしょう。どこの学校も留学生のサポートには躍起になっているので似たような設備があると思います。せっかくこれだけのサポートがあるのに使わないのはもったいないので、どんどん有効活用して英語も研究も進めていければと思います。

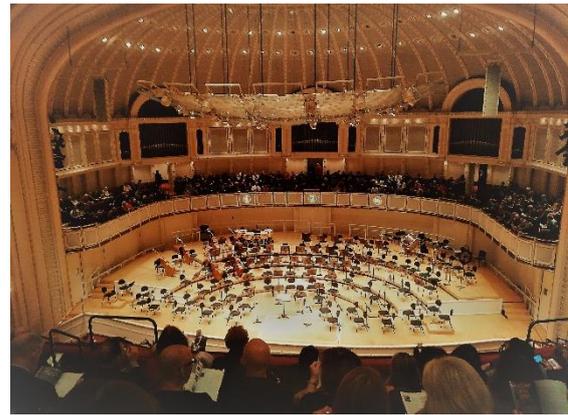


図 2 シカゴ交響楽団のコンサート。気軽に楽しめるのがうれしい。

4. 息抜きに

仕事だけが人生じゃないよとアメリカ人がいいそうな言葉。実際なぜあんなに結果が出るのかわからないほどゆったりと暮らしているように見えます。まあ、それは置いておいて、長い PhD 生活、彼らが言うように適度に息抜きも必要だと実感しています。そんなときに最適なのが学生割引。バス、電車は乗り放題、見るのに一日かかる美術館が無料だったり、オーケストラが 15 ドルだったり、そういった面での優遇もアメリカのほうが充実しているように思います。せっかくシカゴにいるわけだし、学生の身分を目いっぱい利用させてもらっているいろいろな体験をしていければと思います。

ホームに根付いたスポーツチームも魅力。迫力もあるし、席を選ばなければ意外と安かったり (10 ドルとか) するので第二の故郷としてホームチームをやっぱり応援したいなど。アメリカ四大スポーツのうち NBA と NHL (ホッケー) にまだ観戦にいけていないので、行く機会をうかがっています。

5. おわりに

船井財団様の、力をお借りして貴重な経験をさせていただいていることに非常に感謝しております。今後もしっかりと勉強して、少しでもこれまでのサポートに恩返ししていく所存です。生活にも慣れ、徐々に周りが見えるようになってきたので新しいことにも挑戦しつつ、今後もしっかりと自分を鍛えていきます。

文献

1 DOI:10.1063/1.5011379

2 DOI:10.1002/anie.201713223

3 DOI:10.1063/1.5016488

4 DOI:10.1039/C7EE03326E